

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 27 年後期 **Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**
研究発表報告書

申請者氏名	谷口 智憲	会員番号	0030113
申請者の 所属・職名	慶應義塾大学 医学部 先端医科学研究所 細胞情報研究部門 助教		
出席会議名	SITC 30th Anniversary Annual Meeting		
発表論文 タイトル	Development of anti-GPC-1 (glypican-1)-CAR-T cells for adoptive cell immunotherapies for squamous cell carcinoma		

実施結果:

この度、私は、平成 27 年度後期「Tadamitsu Kishimoto International Travel Award」を受賞し、2015 年 11 月 3 日から 10 日まで渡米し、SITC 30th Anniversary Annual Meeting に参加して参りました。本学会は、米国のがん免疫学会(Society for Immunotherapy of Cancer (SITC))の総会で、がん免疫学の専門学会です。近年、がん免疫療法は、抗 CTLA-4 抗体、抗 PD-1/PD-L1 抗体などの免疫チェックポイント阻害薬、CAR(chimeric antigen receptor)-T 細胞療法が、明らかな臨床効果を示し、ある種のがんに対しては、標準治療の一つになりつつあります。本学会では、基礎医学的な研究のみならず、最新の臨床試験の報告、それらの試験の臨床検体から分かった新たな基礎的知見が多く発表され、この分野の最新の情報を得るのにとっても有用でした。また、本学会が始まる前日には、NIH の Dr. Steven A. Rosenberg の研究室を訪問し、CAR-T 細胞療法を含めた養子免疫療法に関して、議論して参りました。

本学会で、私は、Development of anti-GPC-1 (glypican-1)-CAR-T cells for adoptive cell immunotherapies for squamous cell carcinoma のタイトルでポスター発表を行いました。CAR-T 治療は、CD19 を標的として、血液がんに対しては、顕著な臨床効果を示していますが、固形がんに対しては、よい標的が未だ見つかっておらず、その有用性が示されておりません。今回、我々は、GPC-1 を標的として、固形がんを治療できる可能性を発表して参りました。ポスターのディスカッションでは、例えば抗原のがん特異性の問題、がん組織へ T 細胞を効率的に浸潤させる方法など様々な問題点を議論でき、今後の研究に非常に有用でした。

最後に、本学会への参加をサポートして下さった Tadamitsu Kishimoto International Travel Award、岸本忠三先生、選考委員の先生方にこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。今回の経験をいかし、世界に通用する免疫学研究者を目指して、今後さらに研究にまい進していきたいと思っております。